

2011年度 私立大学図書館協会東地区部会 館長会 会議録

1. 日 時：2011年6月10日（金） 12：10～13：20
2. 会 場：亜細亜大学 2号館6階多目的室
3. テーマ：「情報リテラシーとユーザー環境の整備」
4. 司 会：明治学院大学図書館長（東地区部会長校） 増山 幸一

5. 議 事

（1）はじめに

司会の増山幸一 明治学院大学図書館長より挨拶があった。

引き続き会長校の石川巧 立教大学図書館長より挨拶があった。主に被災地域へのアンケート結果について主要な点が報告された。

引き続き会場校の渡辺恒利 亜細亜大学図書館長より挨拶があった。

（2）意見交換

司会の増山幸一 明治学院大学図書館長より、今回のテーマの趣旨説明があった。いくつかの大学の方より、発題、事例の発表をしていただいた。

・ 新生向けの授業の中で、図書館内の案内、OPAC の検索方法、オンラインデータベースの利用方法等基本的なことを説明するガイダンスを行っている。2年生から4年生は学术论文の検索、学部の特徴に合わせたデータベースのガイダンスを行っている。

・ ラーニングコモンズでインターネット資源、従来の図書館がもっている資料を有効に活用できるよう学習環境を提供しようという目的で運用を開始。議論や、プレゼンの練習などを行っている。

・ 図書館と情報センター、国際交流センター、FD センター、学生センター、キャリアセンターなど学内の様々な部署が集まり、横のネットワークを作って学生の自主的な学習活動を支えていくという目的で組織を新たに立ち上げ、それぞれの部局が独自に取り組んできたことを横断的につないでいく試みを始めた。

・ 紙媒体は今後どのような形で変革していくのか。紙媒体は長所、短所があり、スペースの問題もあって維持が難しいが、電子データもまた技術の変化に対応しなければいけない。インターネット時代の中、地域の大学図書館はどのような役割を果たすのか、という問題がある。

・ 新生生の教養教育の中で学部学科横断的にクラス編成をした授業の中で、図書館ガイダンスを行っている。また学生の希望に応じた利用ガイダンスも都度実施。

図書館の中で経費をかけずにできることを気張らずやっ払いこう、という考えのもとに様々なことを経常の予算、人員で実施、成果を上げている。

・ 新生対象に一般教養の中で情報リテラシーの教育の科目があり、その中で図書館の職

員が15回のうちの1回を担当、1500名が受講した。情報検索の方法を中心に図書館の使い方を講義している。

- ・新入生ガイダンスの中で図書館員を中心に情報リテラシー教育を行っている。また研究室単位でのデータベース講習会、図書館で主催しているデータベース講習会、そしてコンピュータセンター、エクステンションセンターと共催で行っているレポート・論文作成のための情報収集、という講習もある。

新図書館への移設を予定で、その中にコンピュータセンター、キャリアセンターが入る予定である。

- ・データベースを導入しても、使い方を教えないと生かすことができない。また実績ができることによって図書館の政策を進めることができる。図書館のマネジメントが問われている。